

中学校・道徳の内容項目の解説

真理愛・理想の実現

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること	〔一般的な呼称例〕
(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。	真理愛・理想の実現

●解説

全体的な理解	いかなる時代に生きても、人は自己の人生を切り拓いていく積極性と力強さをもつことが大切である。真理とは、だれも否定することのできない普遍的で妥当性のある物事の筋道、道理を指し、真実とはうそや偽りのないことである。共に人間らしい誠実な生き方がかかわってくると考えられる。そして、理想は、この真理や真実を探求した結果、自分の人生をかけて実現すべき価値を見いだしたときに強く意識されるものである。よりよく生きる力は、こうした積極的な生き方を追い求める中で培われるものである。
発達の観点	中学生の時期は、人間としての生き方や社会のしくみなどについての関心が高まってきて、自分の将来に向かって理想を求める傾向が強くなっていく。そこには、自分の人生をよりよく生きたいという内からの願いがある。しかし、その描く理想は必ずしも自分の置かれている現実についての十分な認識に立っているものではなく、自分を過大視したり、安易に現実に妥協したり、集団の中に埋没して主体性を失ったりして、ときには絶望したりすることもある。現実と遊離した理想を性急に求めるあまり、その夢が破れたときは人生のむなしさを感じてしまうことも多い。
指導の着眼点	指導に当たっては、学ぶことや人間や社会の在り方について、分からないことを謙虚に受け止めて探求し続け、真理や真実を求めつつ、生きることについての意味を見だし、目標をもち、よりよく生きようとする積極的な態度を育てることが重要である。そのためには、的確な判断力をもって現実を見つめたり、将来に向かって理想を実現していくことの大切さについて、自己の生き方とのかかわりをもって考えられるようにすることが肝要である。そして、絶えず高い理想を求め、志をもって明るく生き生きと生きることが、人生に意欲をわかせる、自分の生涯を豊かにすることにつながることを自覚できるようにすることが必要である。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること	〔一般的な呼称例〕
低学年	-----
中学年	-----
高学年	(5) 真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。
	真理愛・創意工夫